



秦野市長 高橋 昌和 様

秦野市環境審議会  
会長 竹内 将 俊



### 第3次秦野市環境基本計画案について（答申）

令和3年2月8日付けFNo. 5・5・0（甲）において諮問のありました「第3次秦野市環境基本計画案」について、当審議会において、基本的な考え方を踏まえ慎重に審議したところ、次のとおり結論を得たので答申します。

#### 1 全体について

環境課題について、我が国や県に加え、SDGsといった国際社会の動向を踏まえた立案となっており、これからの秦野市独自の取組方針と具体的な行動内容を示すものとして評価するとともに、取組が着実に実行されることを期待します。

#### 2 施策の方向性について

##### (1) 将来テーマ

「恵み豊かな環境の保全」という本市において第一義的な表現に続き、私たちの日々の活動が地域の創生につながるためのものであり且つ持続的な取組でなければならない、という強い意志を感じ取ることができ、市民にとっても分かりやすいものと言えます。

##### (2) 重点戦略及び横断的視点


地域資源の保全と利活用により人や資源の好循環を生み出す地域循環共生圏の構築、及び国際的な協調や協力が求められる気候変動への適応を重点戦略に位置付け、地方行政として推進していく姿勢は、的確な時代認識が反映され、特に前者については、本市の行政計画の礎とも合致するものであり、文字通り戦略的に取り組まれることを要望します。

また、横断的視点については、市民、事業者、行政による意識の共有が不可欠であり、培われた意識や協調性を生かした取組の推進を期待します。



(3) 環境未来像を実現する基本施策について

ア 森林や里地里山、秦野名水といった本市が他に誇る地域資源を、より一層に磨き上げ、持続可能な形で後世に伝えていく姿勢を感じ取ることが出来ます。



イ ゼロカーボンシティ表明に基づく脱炭素社会、さらには、プラスチックの廃棄から派生する海洋汚染など、国際的にも注目されている理念や課題をキーワードとして取り上げ、その実現と解決に向けた姿勢が示されていることは高く評価します。

しかしながら、これらの課題に関しては、従来のフォアキャストिंगのみならず、バックキャストिंगの思考による取組が求められていることから、将来をイメージしたロードマップ等を作成し、両者を使い分けながら推進されることを要望します。

ウ 秦野市総合計画で掲げられました都市像「水とみどりに育まれ 誰もが輝く暮らしよい都市(まち)」と本計画で掲げました将来テーマ「恵み豊かな環境を 共にはぐくみ 未来へつなぐまち」を実現するためには、このメッセージを自分事として捉えられる人材の育成が最も重要であると考えます。

今後、将来的な環境保全施策は、技術革新等により目まぐるしい発展を遂げていくことが想定されますが、そうした技術を取り入れ活用していくのは、一人ひとりの意識であるということを忘れずに着実な取組として推進されることを切に願います。

### 3 進行管理について

令和12年度(2030年度)までの10年という長期にわたる計画であることから、急速な社会情勢の変化を見据えた施策の進行管理に努めるとともに、社会潮流を踏まえた評価システムの確立を期待します。